

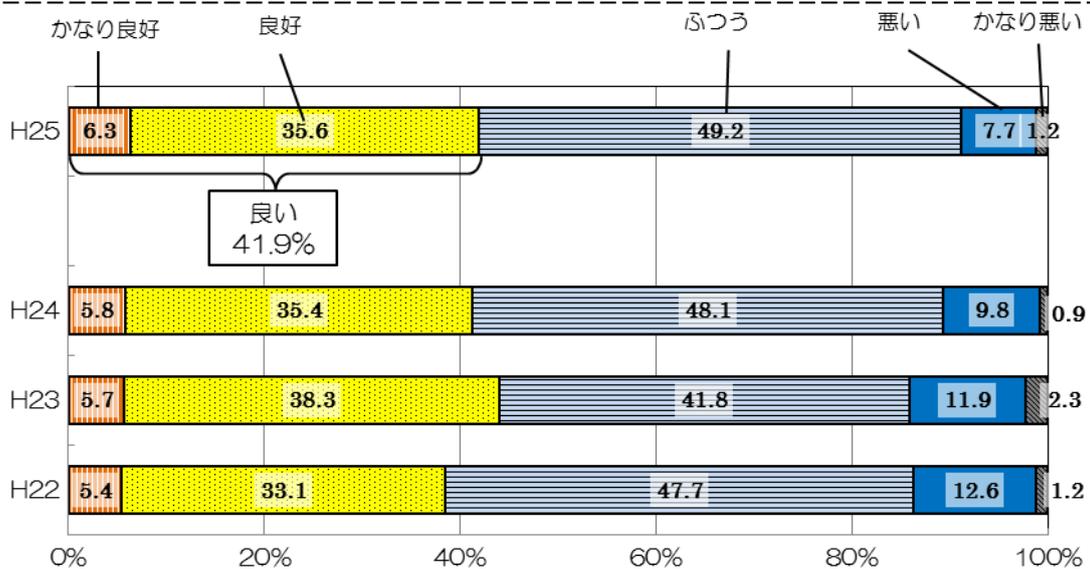
平成25年度 環境に関する市民意識調査【結果概要】

環境に関する意識について

- 横浜の環境が「良い」という回答が4割を超えており、経年変化を見てもほぼ同様の割合で推移しています。一方で、「悪い、かなり悪い」という回答は年々減少しています。
- 生活の便利さ・快適さよりも「環境保全を優先」という回答が7割程度となっており、環境に対する市民の意識の高さがうかがえますが、20歳代では5割程度となっています。若い世代への意識啓発を重点的に進めていく必要があります。
- 省エネの取組を「震災を契機に実践している」という回答の割合は減少傾向にあります。一方で、震災後からの実践程度の変化は「震災直後より現在の方が省エネに取り組んでいる」という回答が30%あり、横浜市民の環境への意識の高さがうかがえます。意識の低下を防ぐための啓発とともに、取組に熱心な市民を意識した事業も必要です。

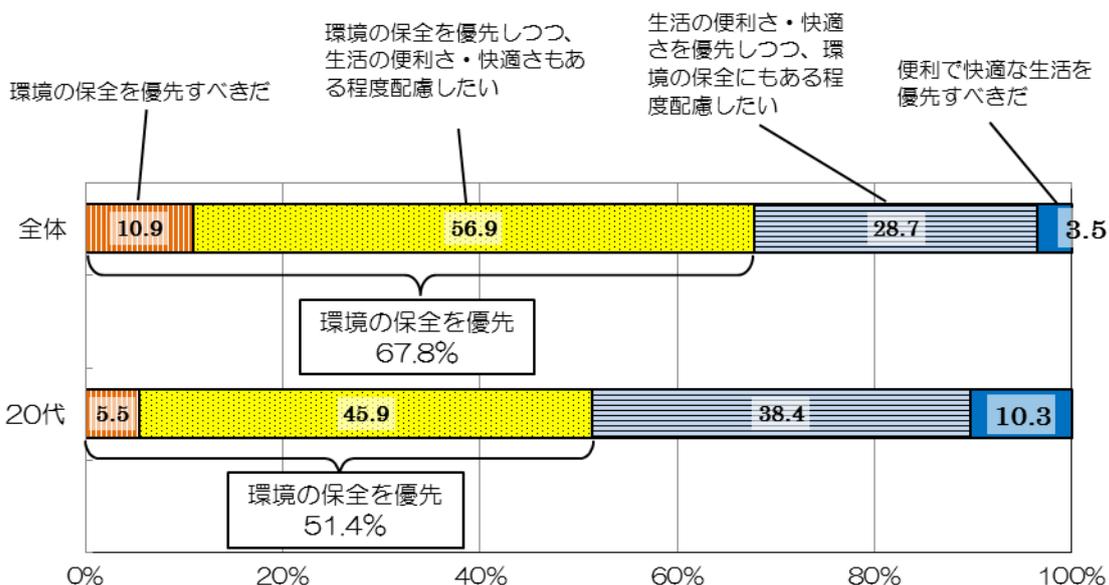
Q1. 横浜の環境の現状について、どのように感じていますか？

◇「かなり良好、良好」が42%。「悪い、かなり悪い」は減少傾向。



Q10. 環境の保全と生活の便利さ・快適さの優先度は？

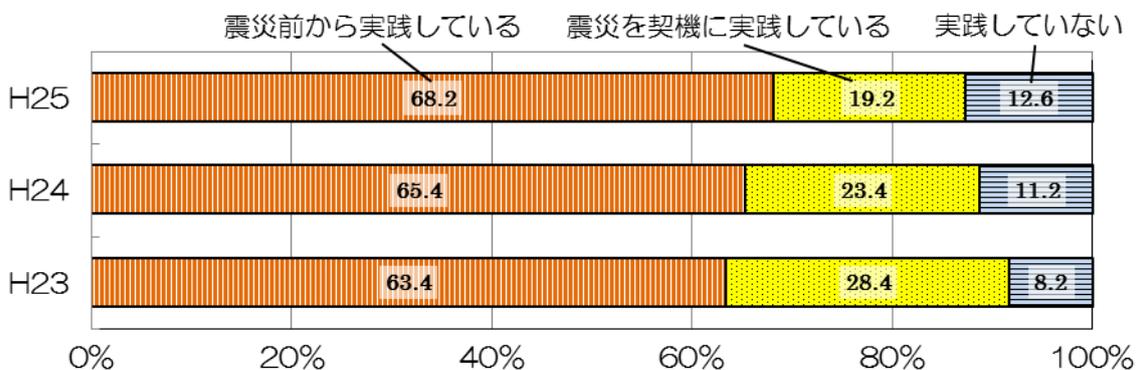
◇「環境の保全を優先」が全体では68%だが、20代は51%のみ。



Q6. 環境にやさしい生活をするために実践していることはありますか。また、東日本大震災の前と比較して、日常生活において意識や行動に変化はありましたか。

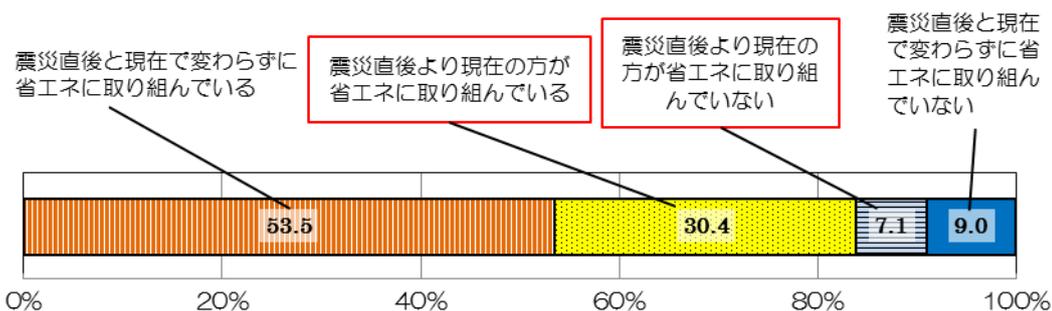
(1) 家庭で省エネルールをつくり、電気やガス、水のムダづかいに気を付ける（こまめにコンセントを抜く、冷暖房の適切な温度設定など）

◇「震災を契機に実践している」が減少傾向にある。



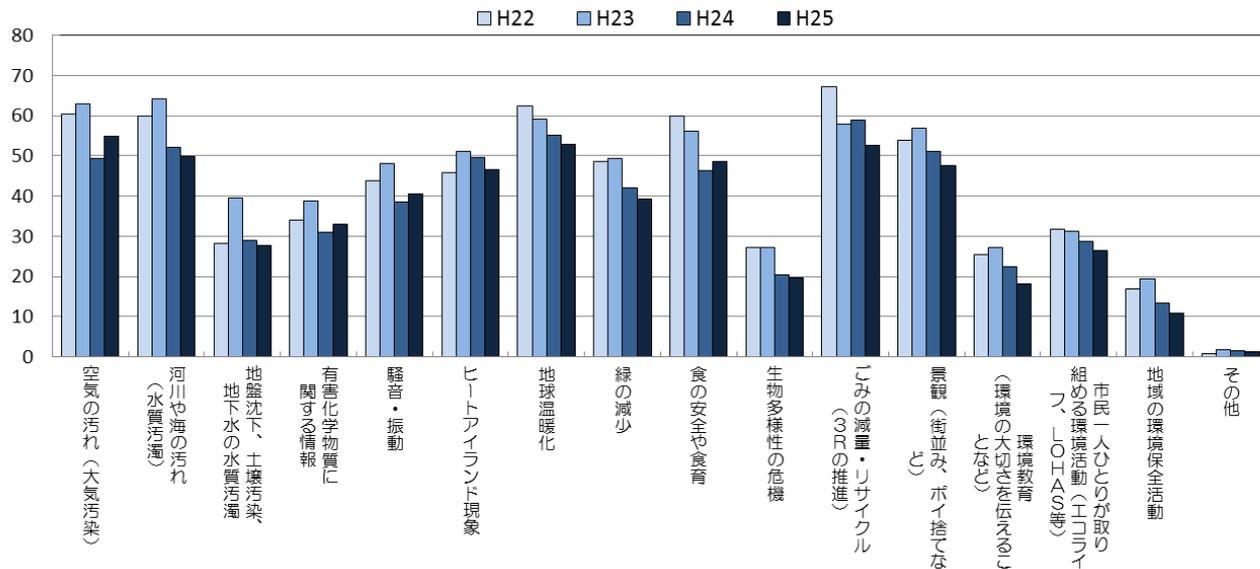
Q9. 東日本大震災の直後と現在を比較して、日常生活における節電やエコドライブといった省エネの取組に変化はありますか？

◇「現在の方が取り組んでいる」(30%)が「現在の方が取り組んでいない」(7%)を大きく上回る。

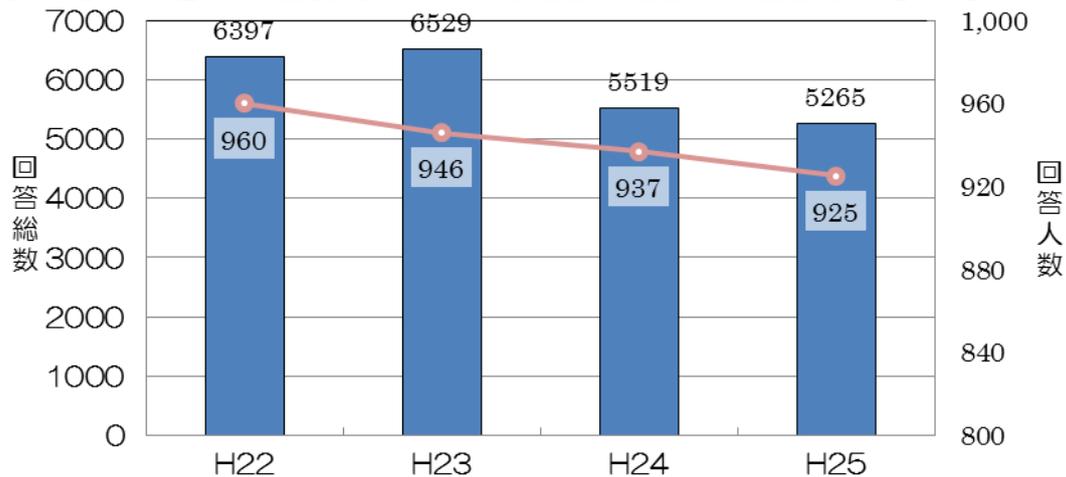


参考

Q5. 関心のある環境問題や環境活動は何ですか？（複数回答） 経年変化



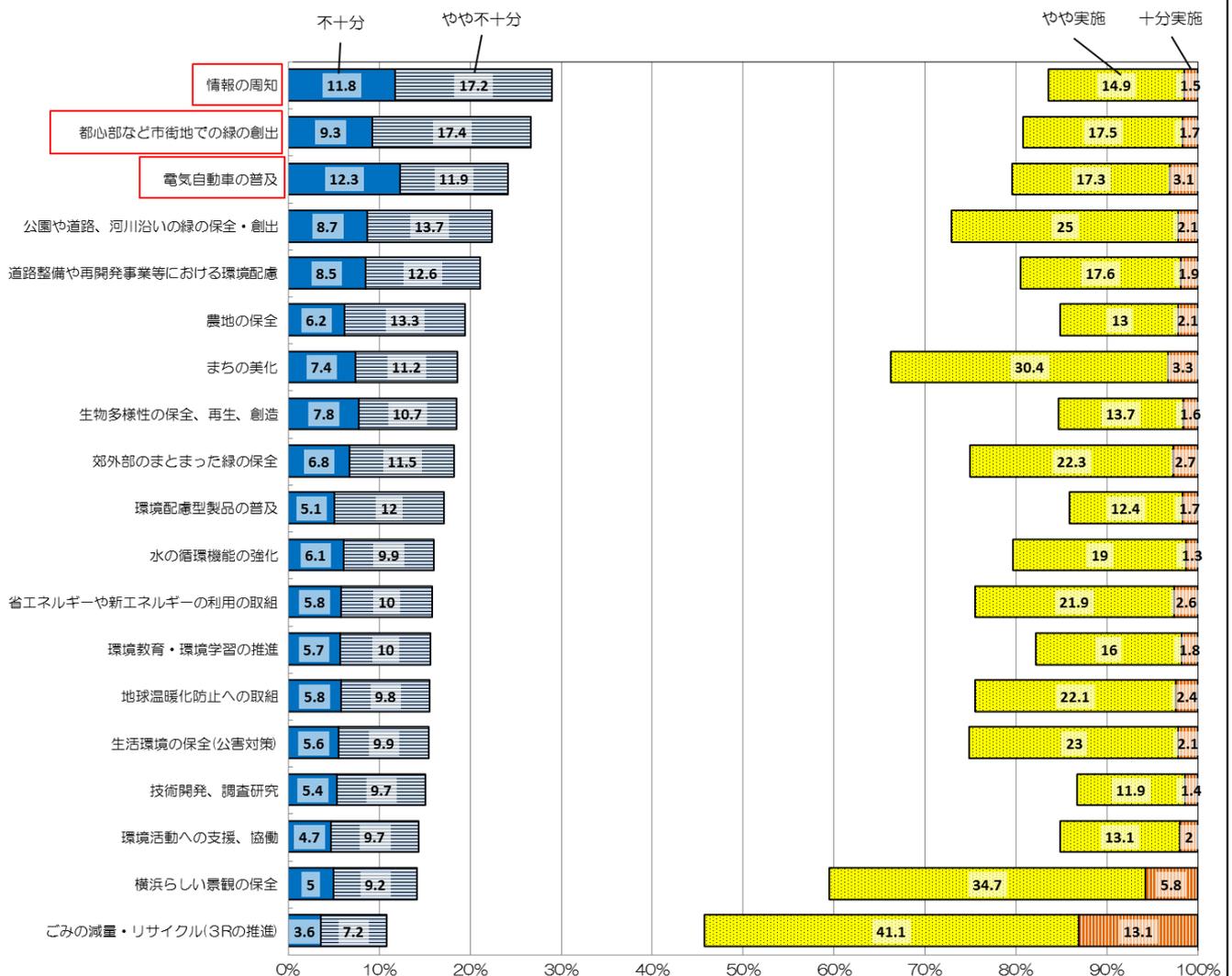
Q5. 関心のある環境問題や環境活動は何ですか？（複数回答） 回答総数と回答人数の経年変化



市の環境に関する取組の満足度について

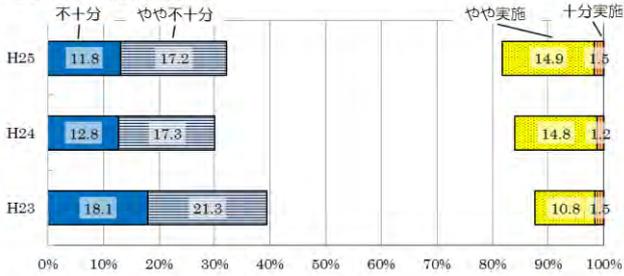
- 市の環境に関する取組のうち「不十分である」と考えるものとして、「情報の周知」「都心部など市街地でのみどりの創出」「電気自動車の普及」が上位となっており、一層の取組が必要です。特に「情報の周知」については3年連続で最も「不十分」な取組となっていることから、情報周知方法や手段の工夫が必要です。
- 環境に関して必要な情報は得られているかという設問に関して「得られていない」という回答が7割弱を占めており、情報の周知が課題であることがここでも分かります。一方で、「得られている」という回答はやや上昇し、さらに環境創造局がTwitter（ツイッター）で環境情報を発信していることの認知度についても、低い水準ではありますが、やや上昇しています。

Q33. 横浜市が現在行っている環境に関する取組について、どのように感じますか？

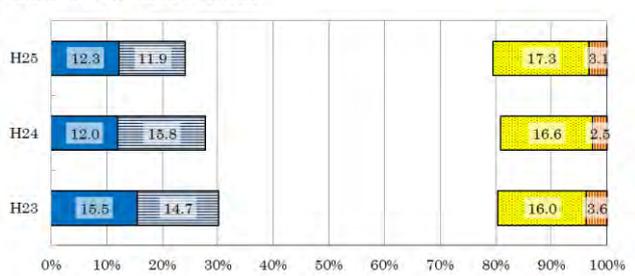


※各項目の経年変化（「都心部など市街地での緑の創出」は今年度から追加したため省略）

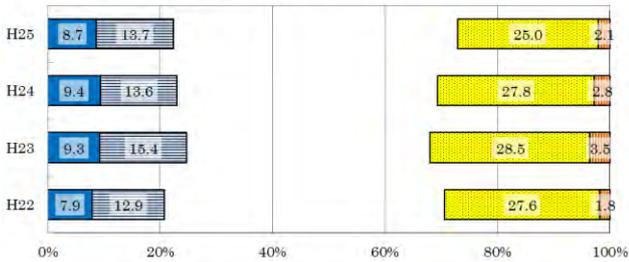
Q33(17) 情報の周知



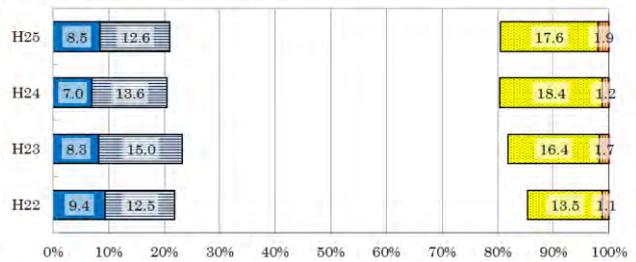
Q33(3) 電気自動車の普及



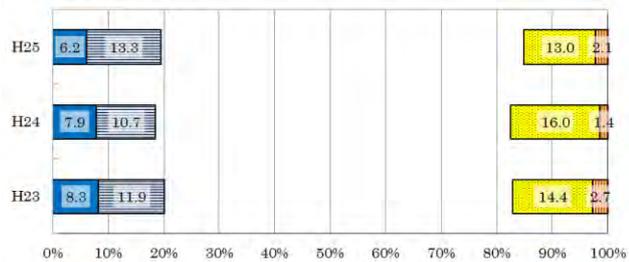
Q33(7) 公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出



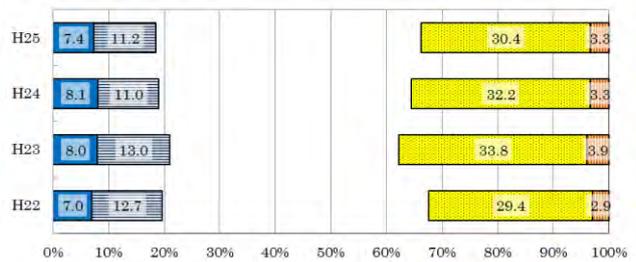
Q33(16) 事業等における環境配慮



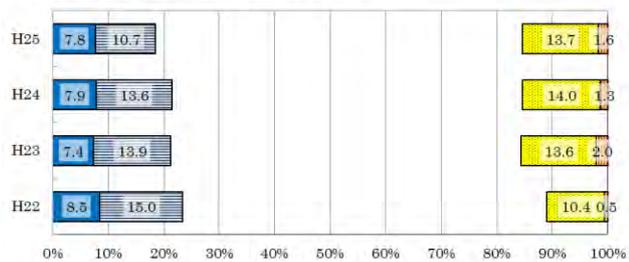
Q33(8) 農地の保全



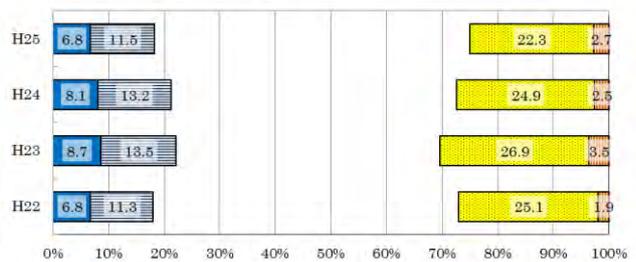
Q33(13) まちの美化



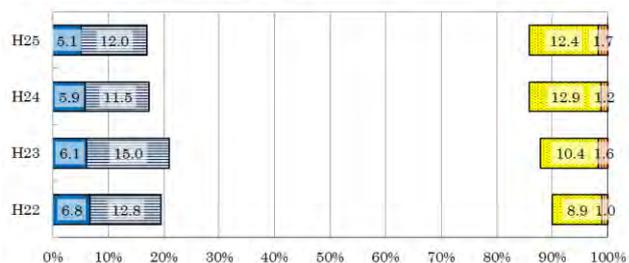
Q33(4) 生物多様性の保全、再生、創造



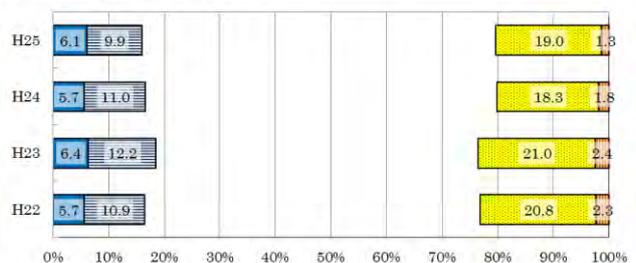
Q33(5) 郊外部のまとまった緑の保全



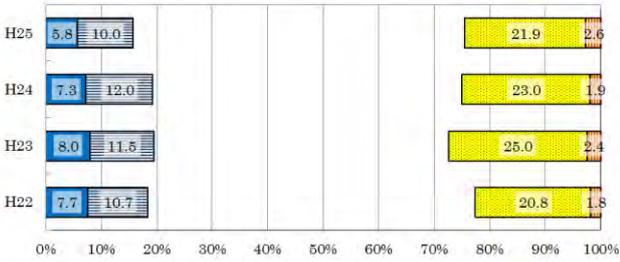
Q33(15) 環境配慮型製品の普及



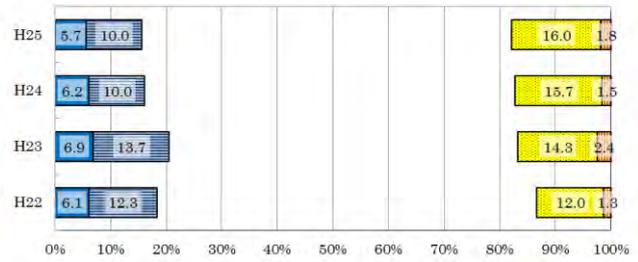
Q33(9) 水の循環機能の強化



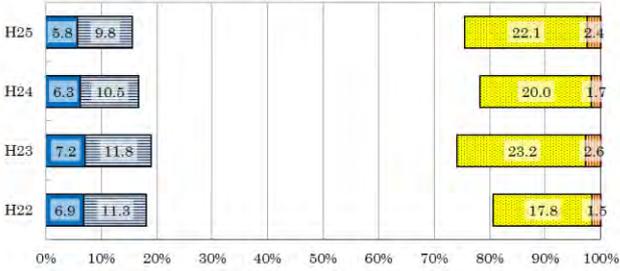
Q33(2) 省エネや新エネルギーの利用



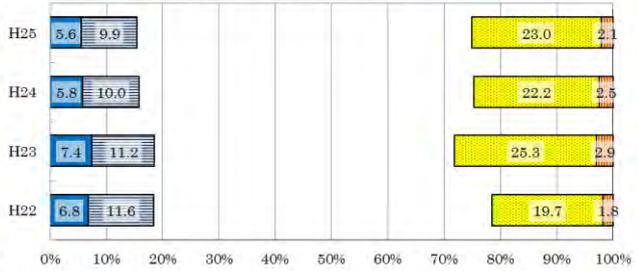
Q33(14) 環境教育・環境学習の推進



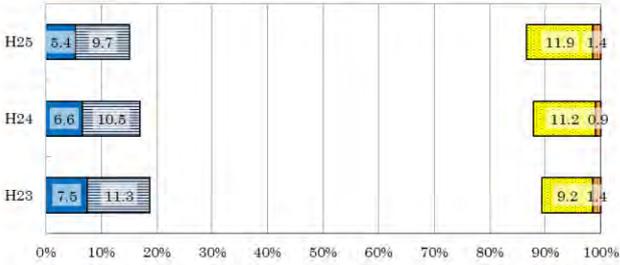
Q33(1) 地球温暖化防止への取組



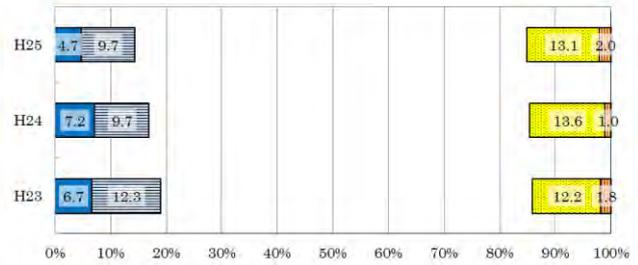
Q33(11) 生活環境の保全（公害対策）



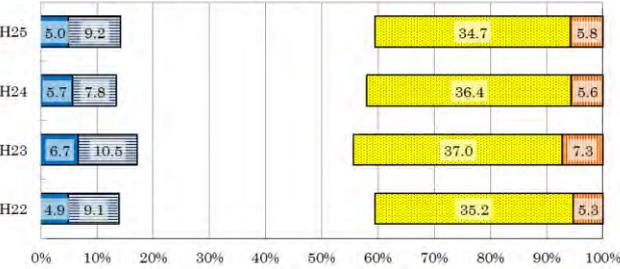
Q33(18) 技術開発、調査研究



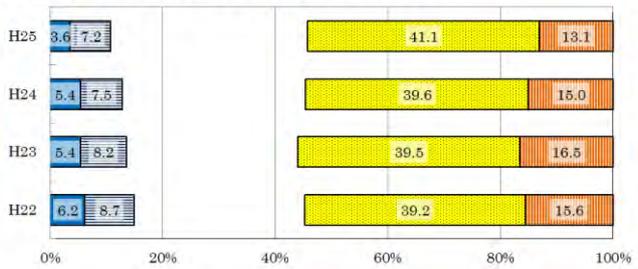
Q33(19) 環境活動への支援、協働



Q33(12) 横浜らしい景観の保全

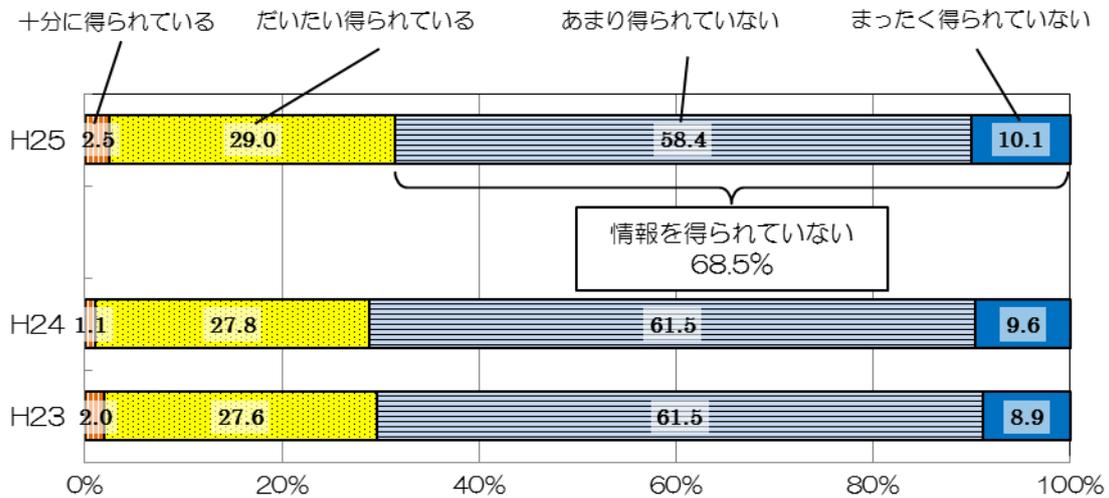


Q33(10) ごみの減量リサイクル（3Rの推進）



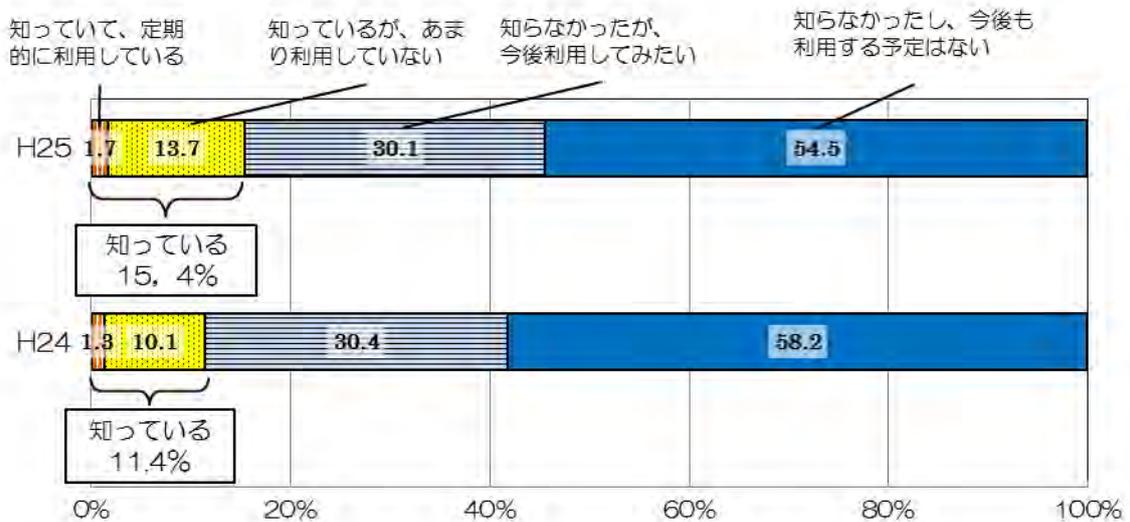
Q17. 環境問題や環境活動に関して、必要な情報は得られていますか？

◇「あまり得られていない、まったく得られていない」が約7割。



Q19. 横浜市が環境に関する情報をツイッターで発信していることを知っていますか？

◇「知っている」が11%から15%へ上昇。

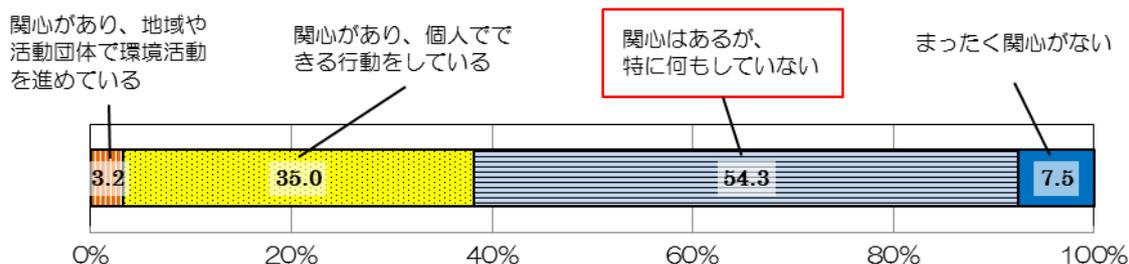


環境行動の実践・地域の環境活動への参加について

- 環境行動について「関心はあるが、特に何もしていない」という回答が最も多く5割を超えています。一方で、具体的な環境行動についての実践状況を尋ねたところ、省エネの取組やごみの分別など実践率が非常に高い行動も多く、こうした一人ひとりが行う身近な環境行動については、日常生活の中に浸透していると考えられます。
- 地域での環境活動については、実際に参加している割合は少ないものの、「参加したい」意志を持っている人は6割を超えています。「機会があれば参加したい」人にとってどのような“機会等”が活動への参加を促すかについては、「興味のある活動が自分の近くで行われている」という回答が最も多い結果となっています。多くの市民が地域での環境活動へ参加することは、地域コミュニティの形成にもつながっていくものであるため、より身近な場所で活動に参加できるように活動そのものを広げる取組や多くの人に活動を知ってもらうための細やかな周知・広報を進めていくことが重要です。

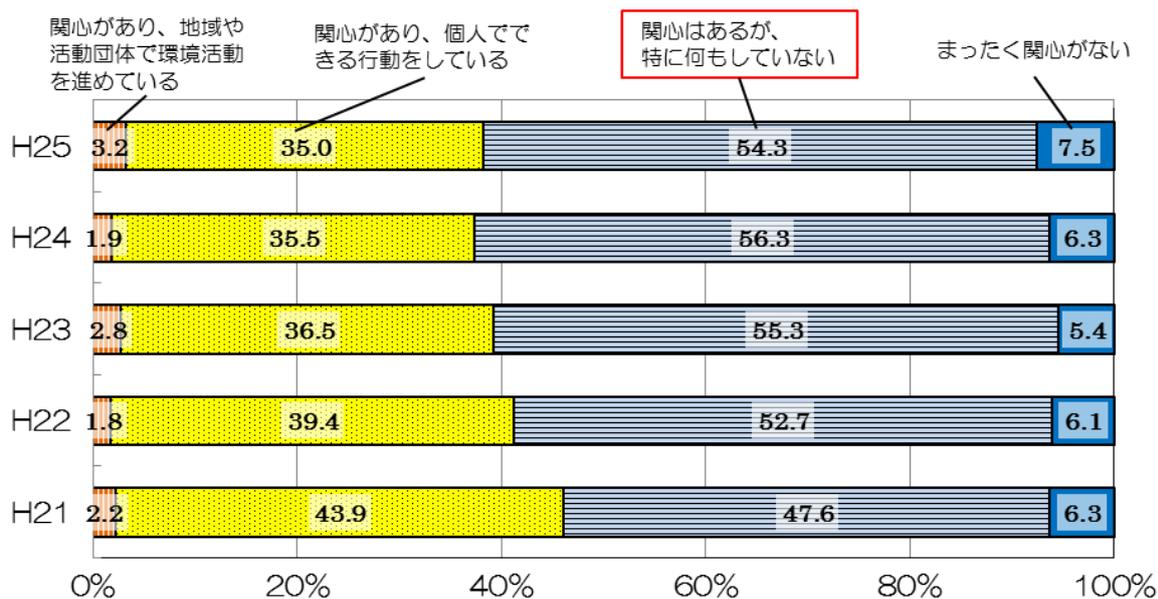
Q4. 環境に対する関心や行動はどういう状況ですか？

◇「関心はあるが特に何もしていない」が最も多く54%。

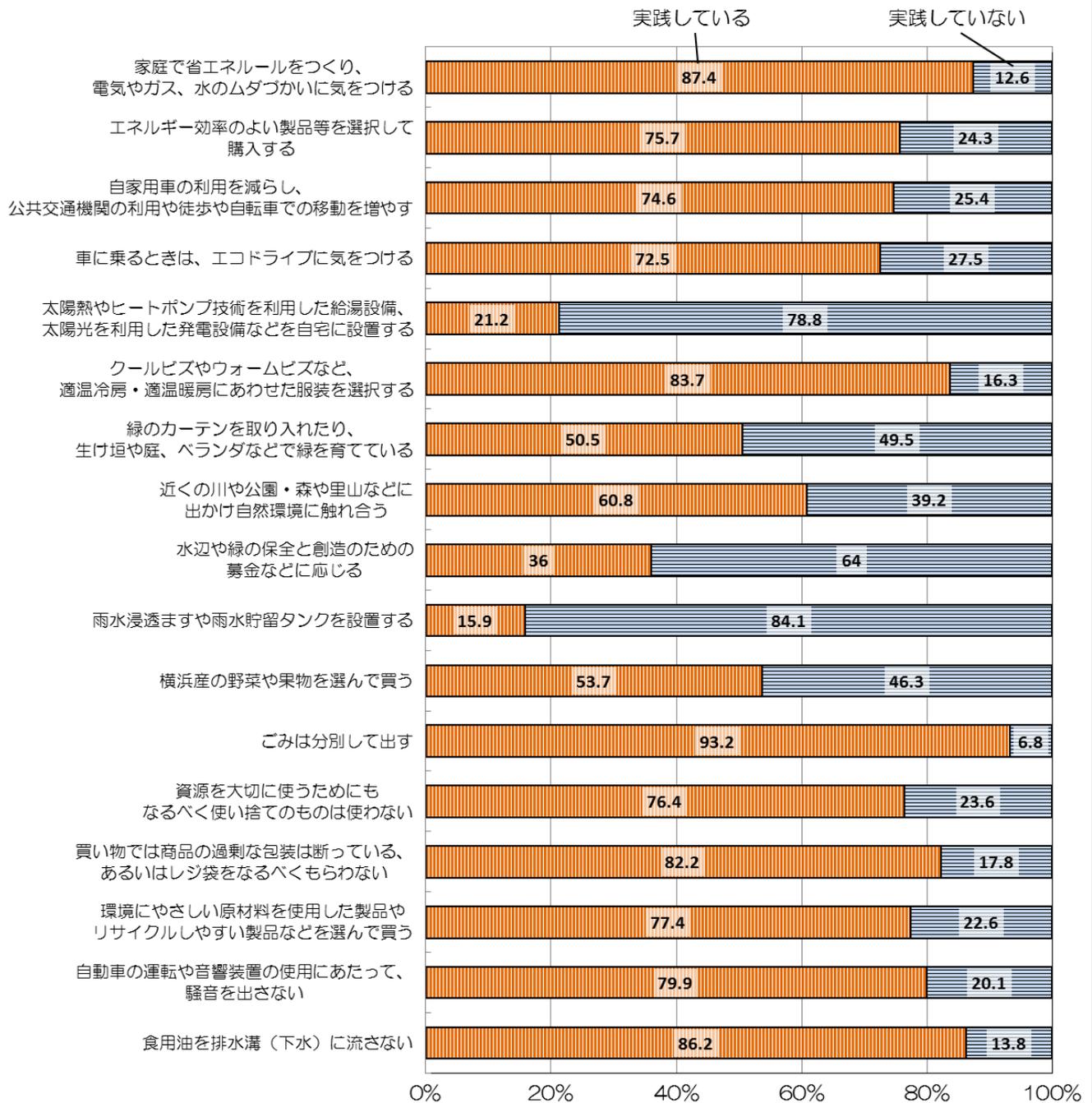


参考

Q4. 経年変化



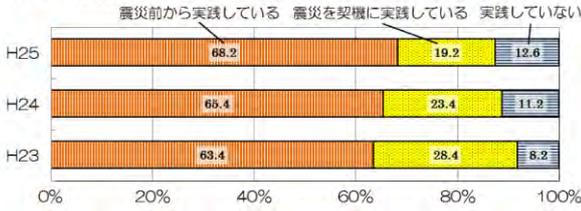
Q6. 環境にやさしい生活をするために実践していることはありますか。また、東日本大震災の前と比較して、日常生活において意識や行動に変化はありましたか？（実践を始めた時期を問わず、「実践している」・「実践していない」で表記）



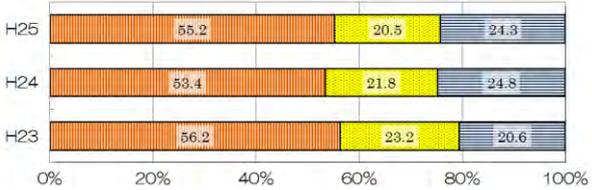
参考

Q6 環境にやさしい生活をするために、実践していることはありますか。また、東日本大震災の前と比較して、日常生活において意識や行動に変化はありましたか？ 経年変化

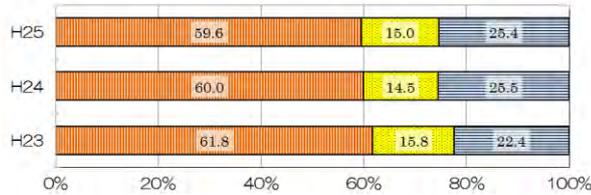
Q6(1) 家庭での省エネの実践状況



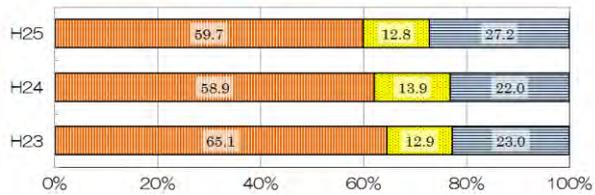
Q6(2) 省エネ製品の購入状況



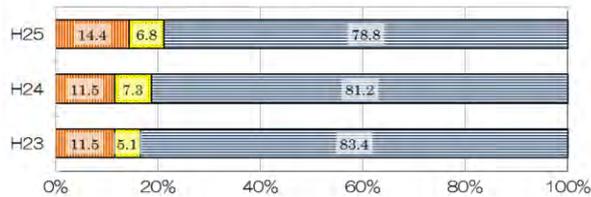
Q6(3) 公共交通機関、自転車、徒歩の実践状況



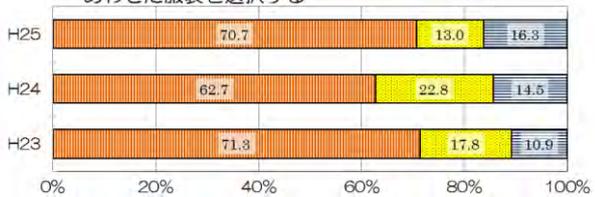
Q6(4) エコドライブの実践状況



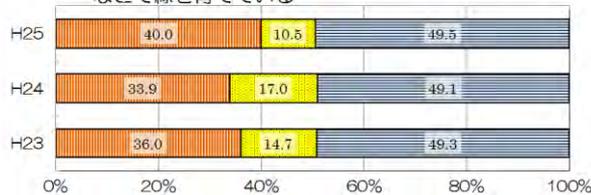
Q6(5) ヒートポンプ、太陽光発電等の設置状況



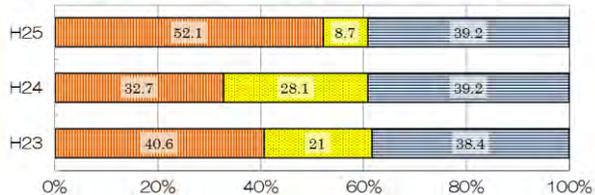
Q6(6) クールビズやウォームビズなど、適温冷房・適温暖房にあわせた服装を選択する



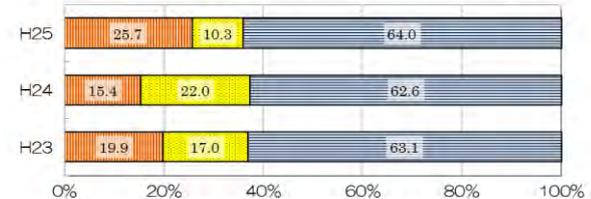
Q6(7) 緑のカーテンを取り入れたり、生け垣や庭、ベランダなどで緑を育てている



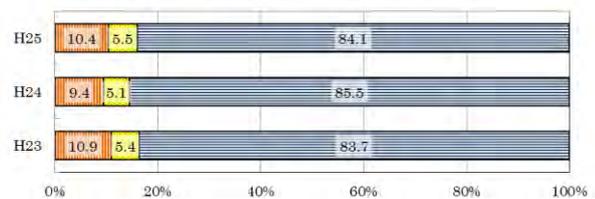
Q6(8) 近くの川や公園・森や里山などに出かけ自然環境に触れ合う



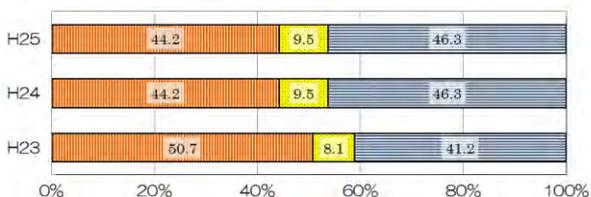
Q6(9) Q水辺や緑の保全と創造のための募金などに応じる



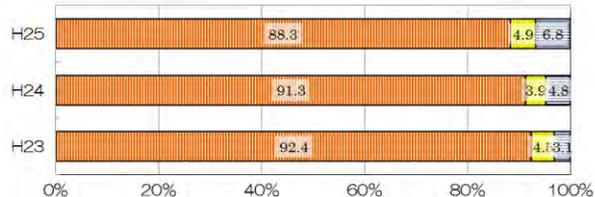
Q6(10) 雨水浸透ますや雨水貯水タンクの設置状況



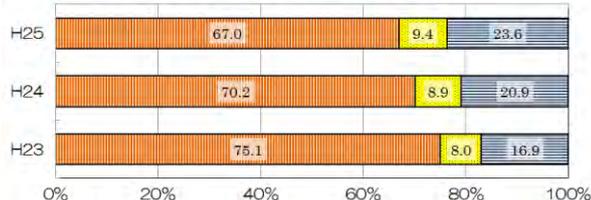
Q6(11) 横浜産の農産物の購入状況



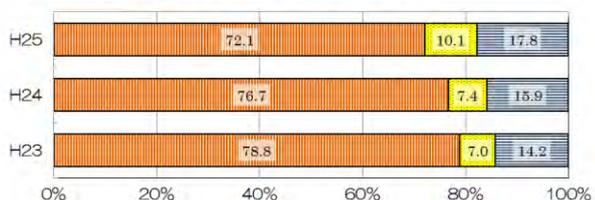
Q6(12) ごみの分別状況



Q6(13) 使い捨てのものの購入を控えているか

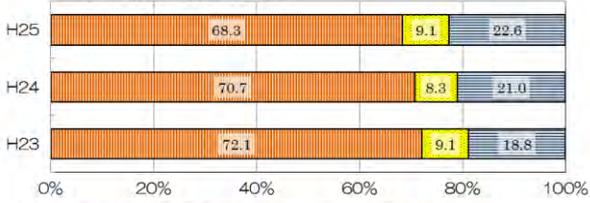


Q6(14) 過剰包装、レジ袋を断っているか

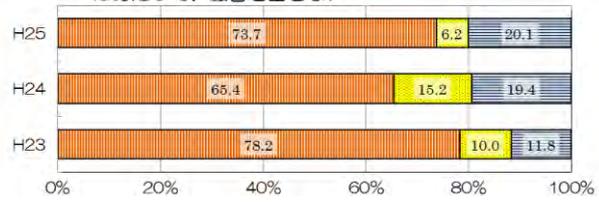


参考

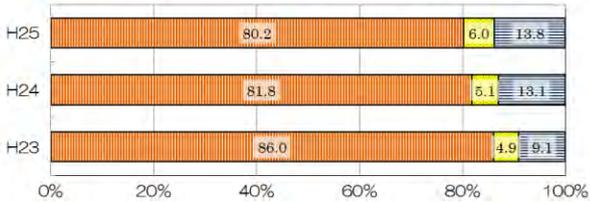
Q6(15) 環境にやさしい原材料を使用した製品やリサイクルしやすい製品などを選んで買っているか



Q6(16) 自転車の運転や音響装置（楽器、ステレオなど）の使用にあたって、騒音を出さない

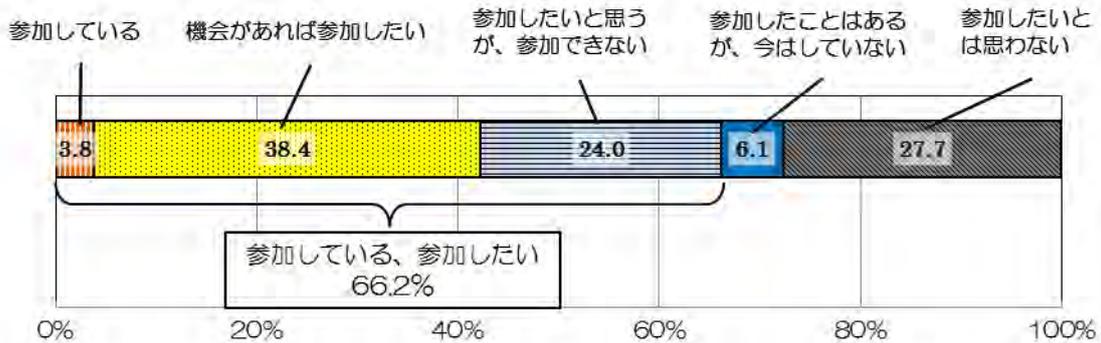


Q6(17) 食用油を排水溝（下水）に流していない



Q12. 地域の環境活動に参加したいと思いますか？

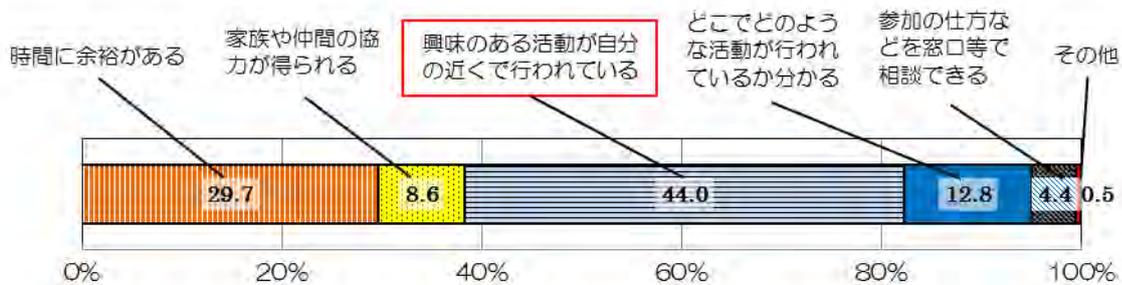
◇「参加している、参加したい」が66%。



Q15. どのような機会等があれば地域の環境活動に参加しますか？

◇「興味のある活動が自分の近くで行われていれば、参加したい」が44%。

※Q12で機会があれば参加したいと答えた方のみ回答

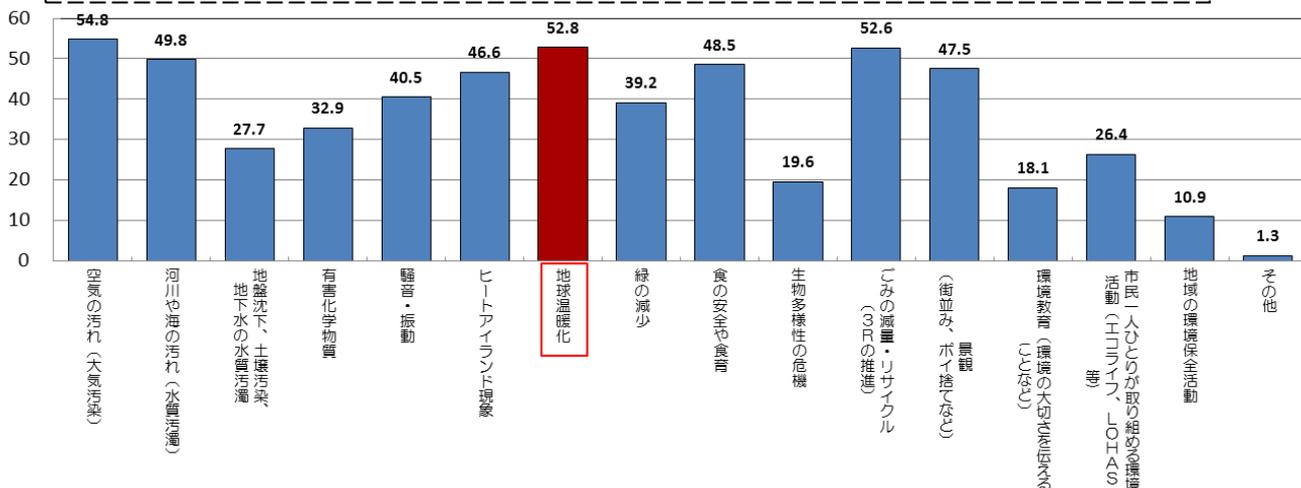


温暖化対策について

- 地球温暖化については、過半数（53%）の人々が関心を持っており、この数値は環境問題に関する15の項目のうち大気汚染に次いで2番目に高いものです。男女別に見ると、女性の61%に対し男性は44%と顕著な差が生じています。
- 横浜スマートシティプロジェクトにおいてHEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）を使った実証実験を進めていますが、HEMSについての認知度は約2割にとどまっています。地球温暖化そのものに対する関心度は比較的高いので、効果的な広報などが必要です。

Q5. 関心のある環境問題や環境活動は何ですか？

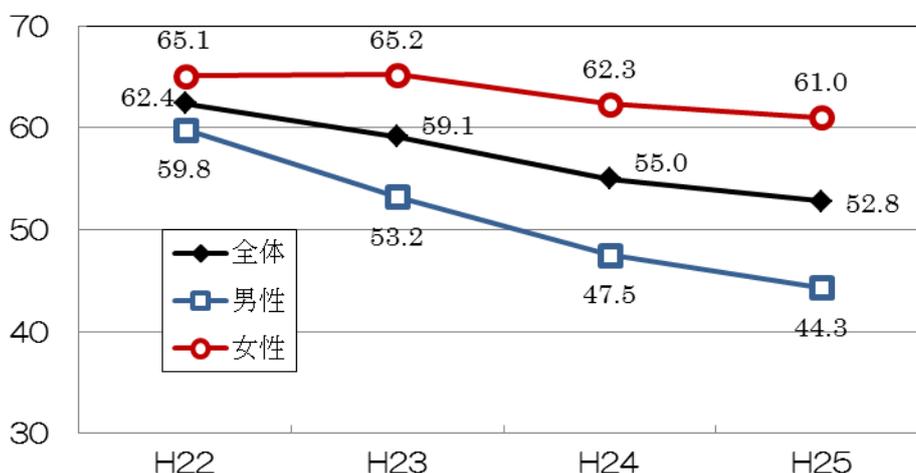
◇「地球温暖化」(53%)が「大気汚染」(55%)に次いで第2位。



男性	53.9	52.4	23.0	27.2	37.1	43.6	44.3	37.7	37.3	16.0	45.6	43.6	14.7	20.6	8.6	1.5
女性	55.7	47.3	32.2	38.4	43.9	49.5	61.0	40.7	59.5	23.0	59.5	51.2	21.3	32.0	13.2	1.1

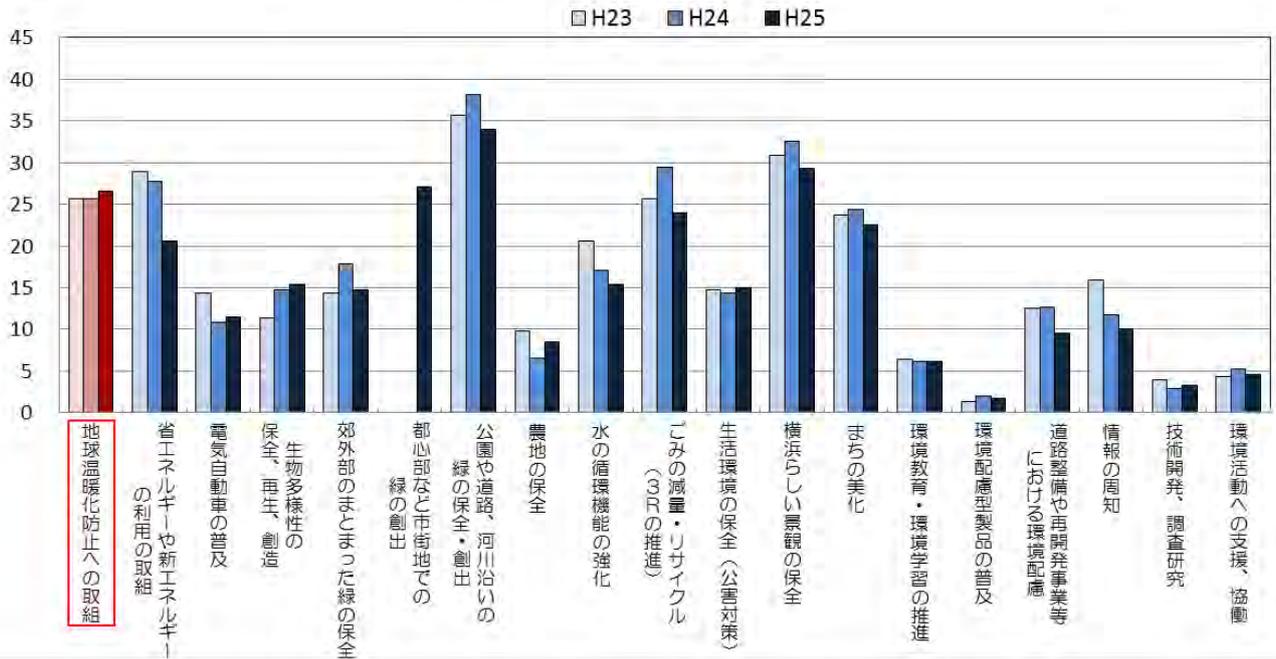
参考

Q5. (地球温暖化) 全体と男女の経年変化



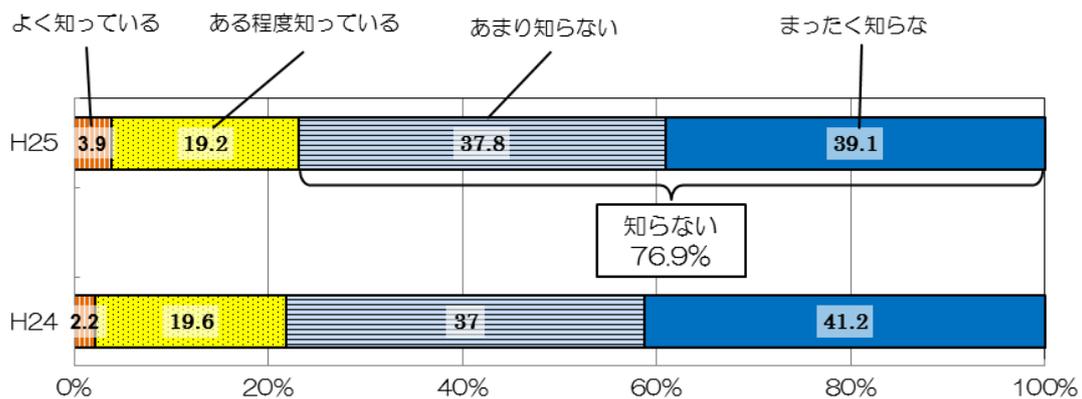
参考

Q34. 今後、横浜市に優先的に取り組んで欲しい取組（3つ選択） 経年変化



Q22. 「HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）」を知っていますか？

◇「あまり知らない、まったく知らない」が77%。



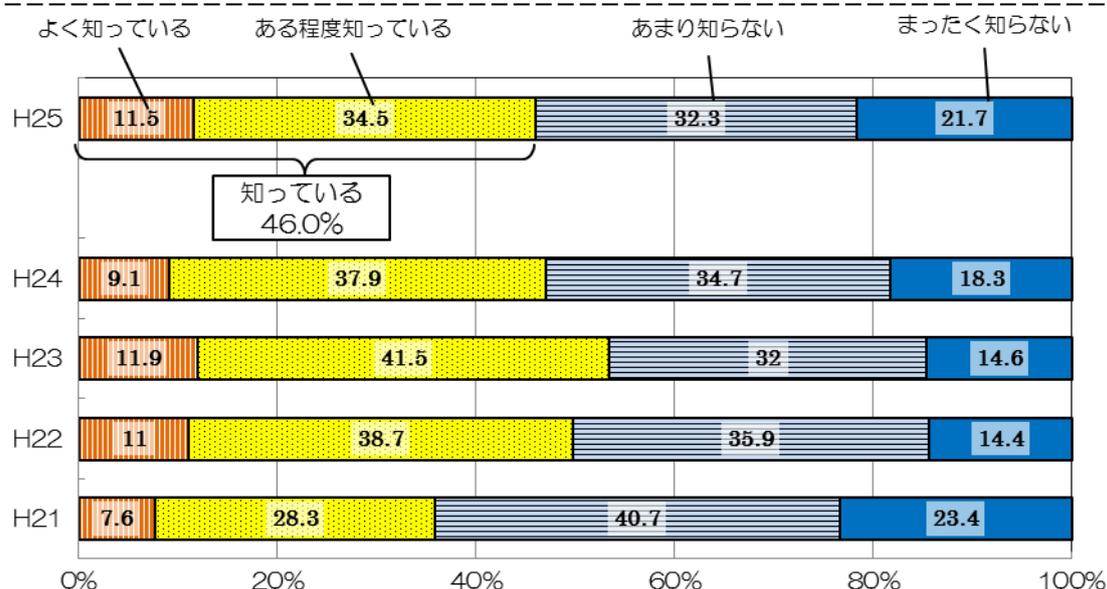
生物多様性について

- 生物多様性という言葉の認知度は46%となっており、平成23年度からやや頭打ちになっている状況です。
- また、生物多様性の危機を身近な問題として認識している割合についても、若干の減少傾向が見られます。
- 生物多様性という言葉を知っている割合は、年代別では20歳代が最も高く、また性別では男性が女性に比べておよそ3倍も高くなっています。しかし一方で、生物多様性を身近な問題として認識している割合では、年代別では20歳代が最も低く、また女性より男性の方が低いという結果となっており、年代や性別等を考慮したうえで事業を進めることが重要だと考えられます。
- 生物多様性を守るために特に必要と思う横浜市の実施策として、「生き物のすむ川、水辺の整備」「外来生物への対策」「都市部の緑の創造」といった回答が昨年度に引き続き上位にあがり、恒常的な課題となっていることがうかがえます。

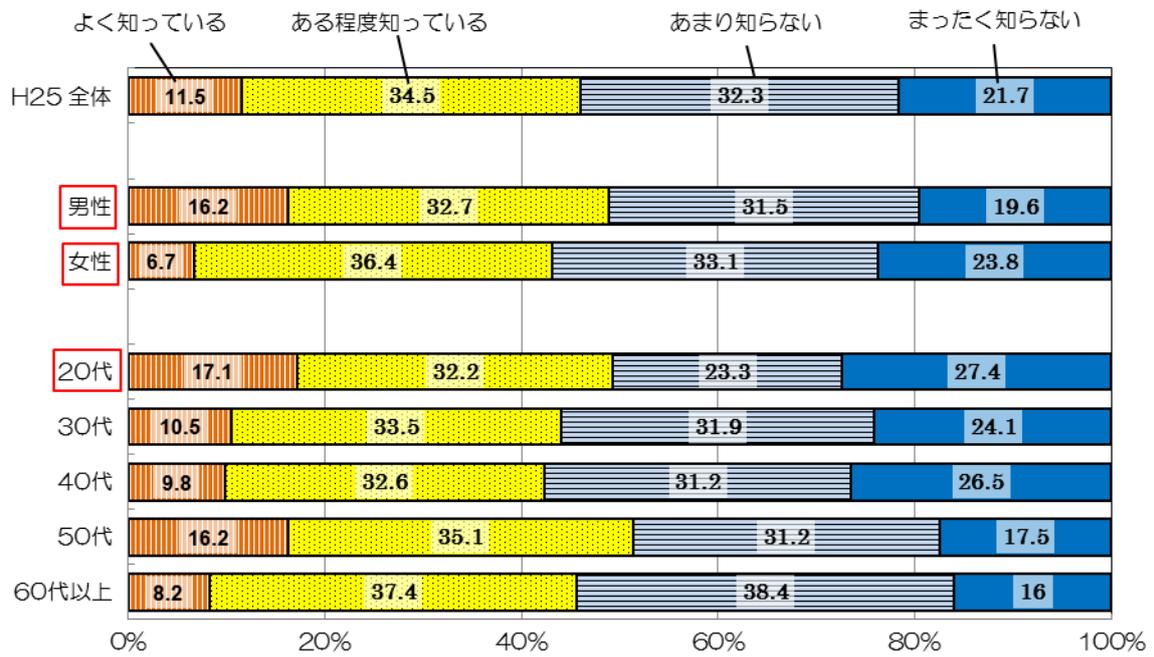
Q23. 生物多様性という言葉を知っていますか？

◇「よく知っている、ある程度知っている」は46%。

◇「よく知っている」は男性16%に対し女性は7%。年代別では20代が17%で第1位。

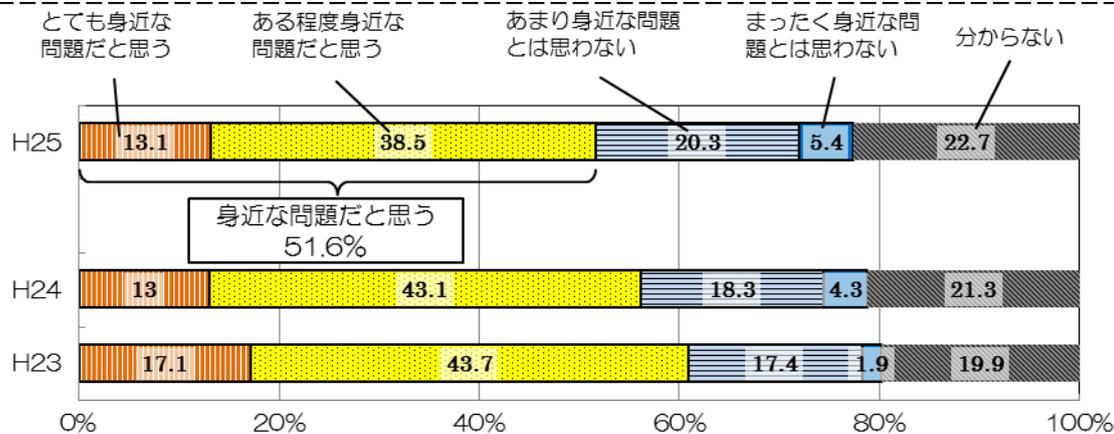


Q23. 性別・年代別の回答状況

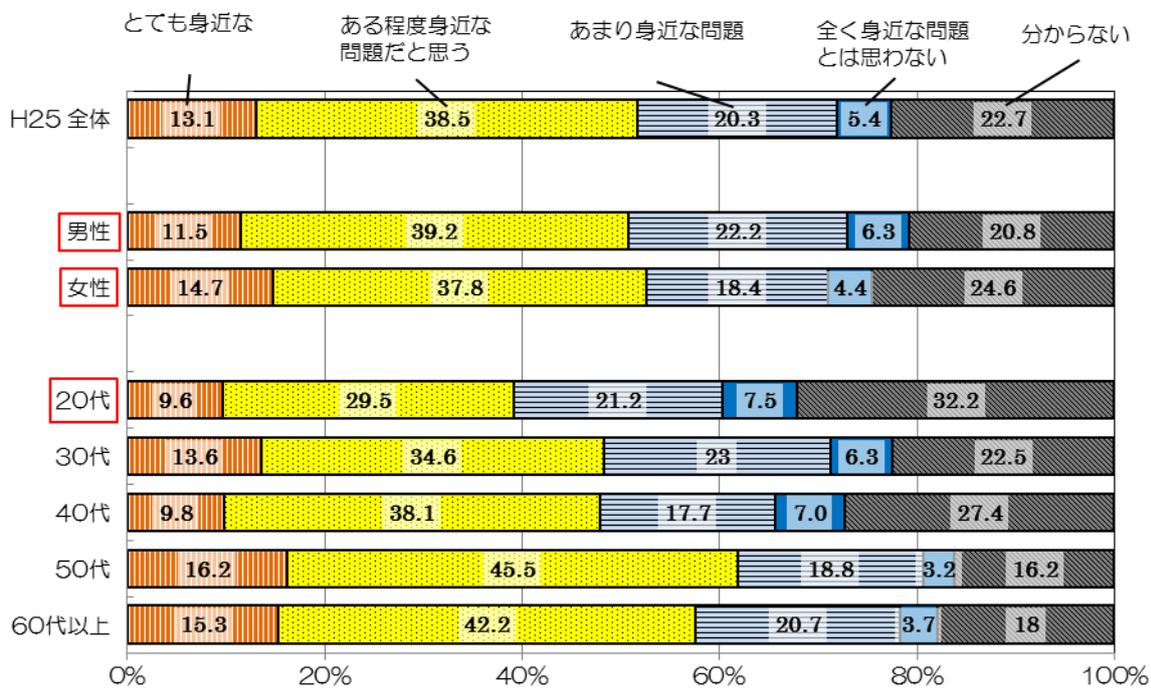


Q24.生物多様性の危機を身近な問題といますか？

◇「身近な問題と思う」は52%。
 ◇20代が最も低く39%。男女別では女性の方が男性より高い。

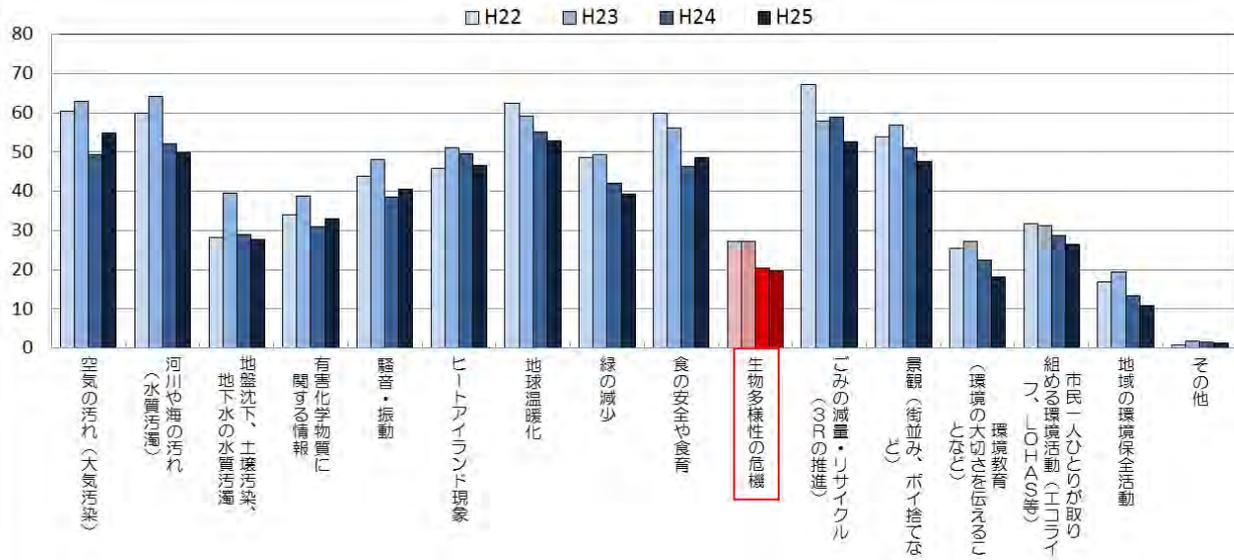


Q24. 性別・年代別の回答状況

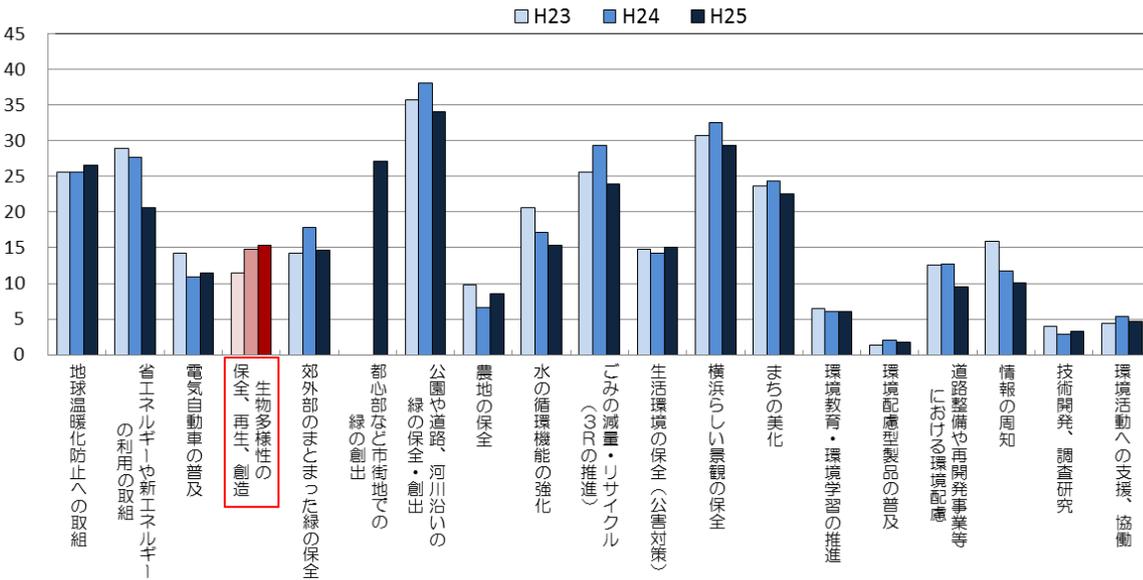


参考

Q5. 関心のある環境問題や環境活動は何ですか？（複数回答） 経年変化

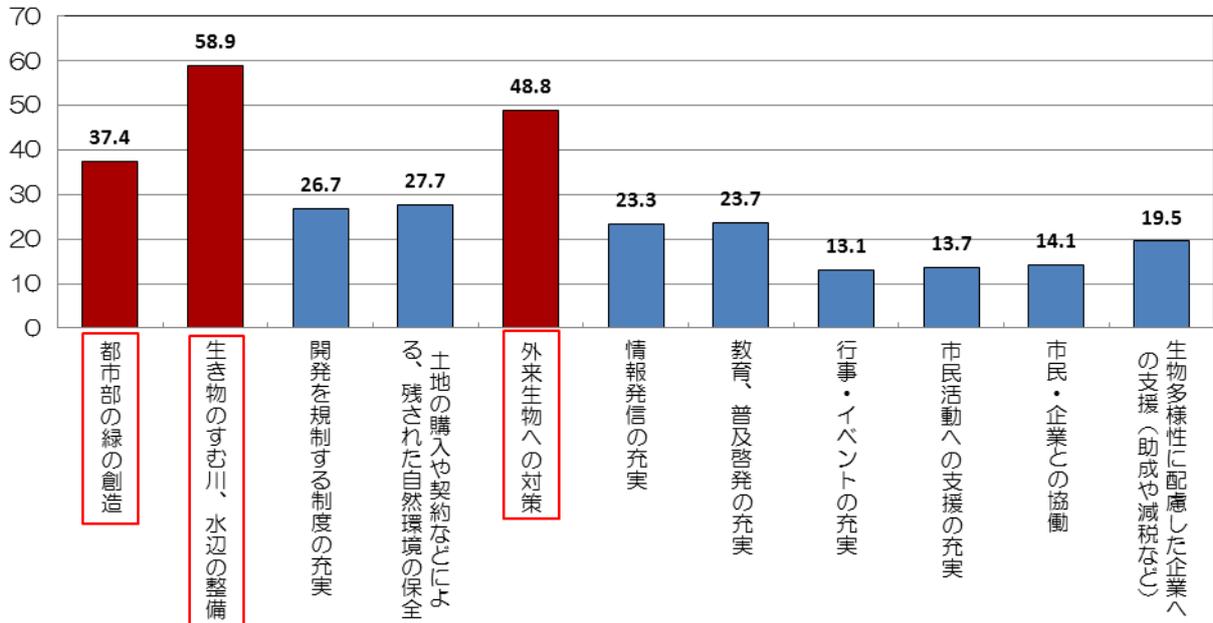


Q34. 今後、横浜市に優先的に取り組んでほしい取組（3つ選択） 経年変化



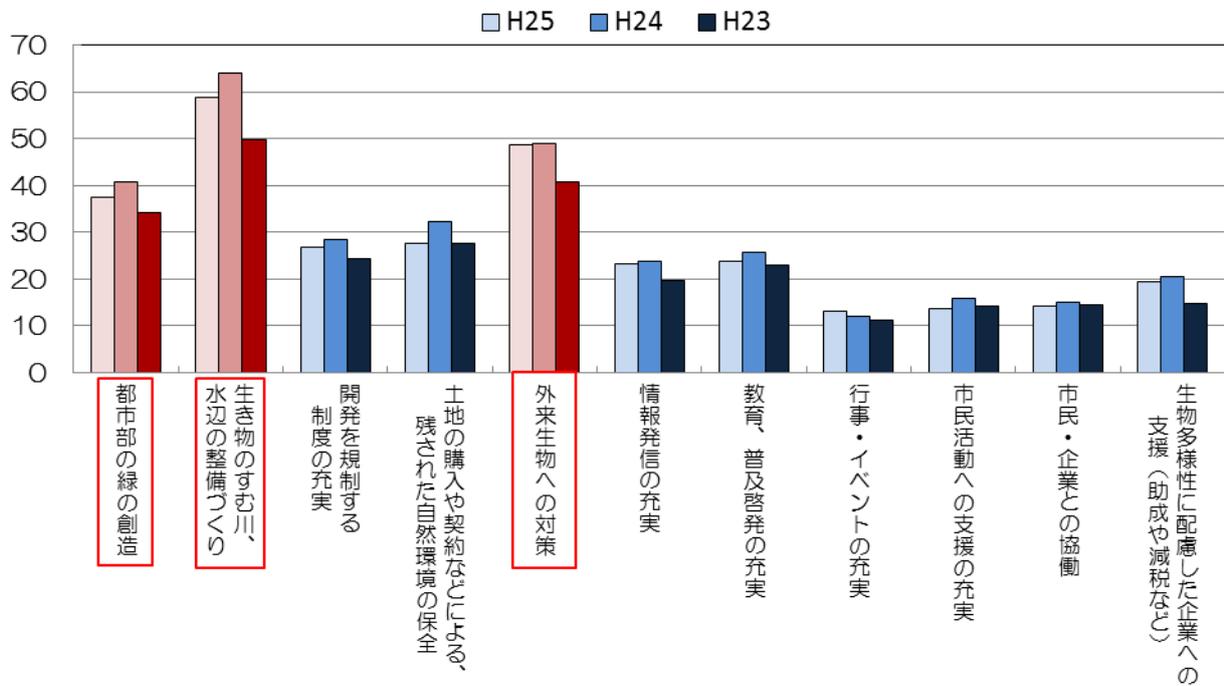
Q25. 「ヨコハマbプラン」における取組のうち、特に必要だと思うものは何ですか？

◇「生き物のすむ川、水辺の整備」「外来生物への対策」「都市部の緑の創造」が上位。



参考

Q25. 経年変化



水とみどりについて

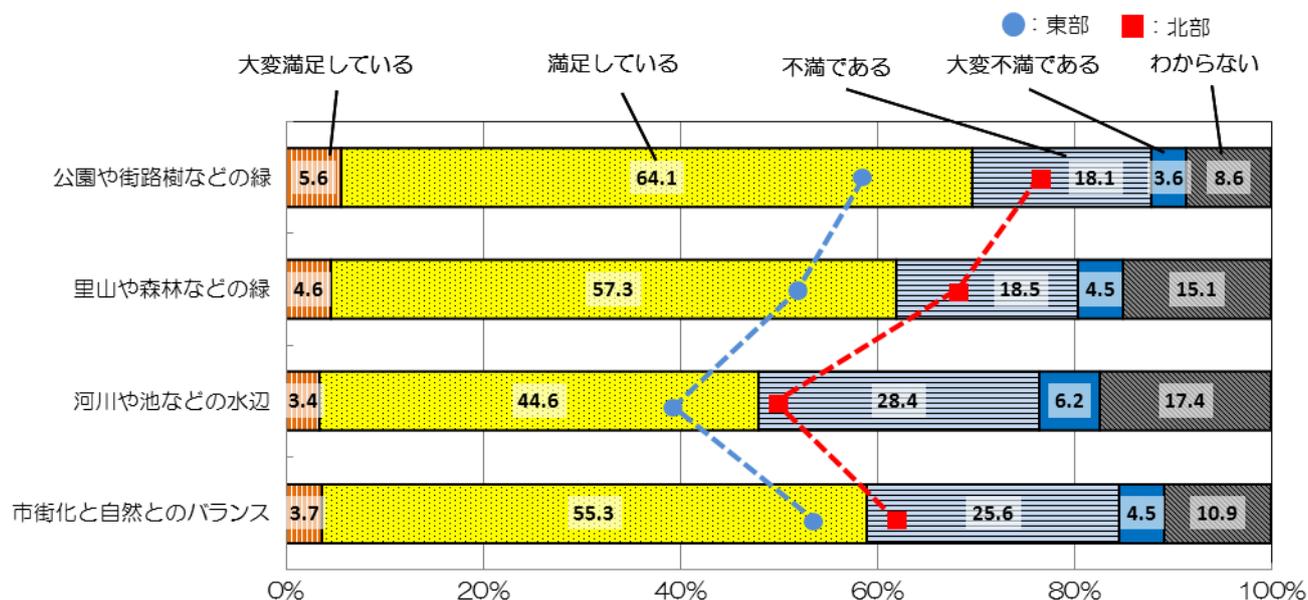
- 横浜市内の「公園や街路樹などの緑」「里山や森林などの緑」「河川や池などの水辺」「市街化と自然とのバランス」の満足度については、5~7割の方々が「大変満足」「満足」と回答しており、概ね高い満足度を得ています。ただし、回答者の居住エリア別では満足度に顕著な差が生じており、北部方面は高く東部方面は低いという傾向が出ています。
- 今後横浜市内に優先的に取り組んで欲しい事項として、全19項目のうち「公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出」が1番目、「都心部など市街地での緑の創出」が3番目目上げられています。みどりに関する関心・ニーズは全体的に高い結果となっていますが、特に「都心部における緑の創出」を進めていく必要があります。
- 市の中心部に緑や水辺が多くないことに対する考えとしては、「公園などのオープンスペースを整備して緑や水辺を増やすべき」「街路樹で緑を増やすべき」が多く、「緑や水辺を増やす必要はない」という回答は少数です。

Q3. 横浜市内の環境の現状に満足していますか？

◇北部方面居住者の満足度は高いが東部方面は低い傾向。

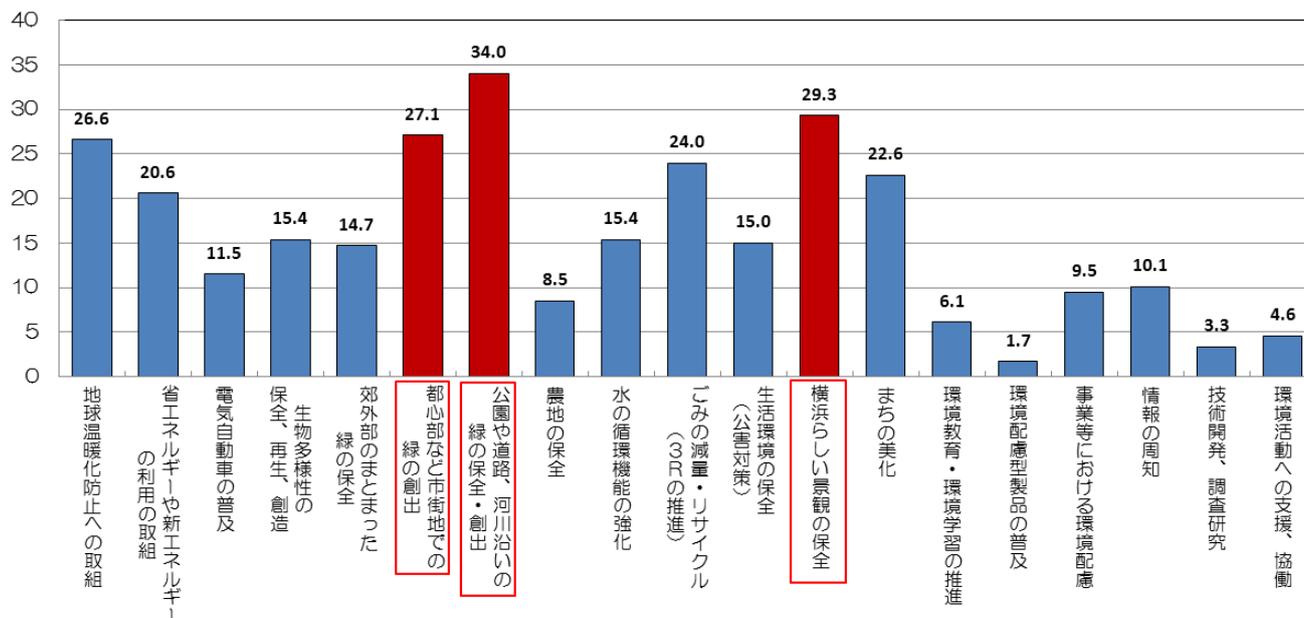
※帯グラフ中の●と■は東部および北部方面居住者の「大変満足している」と「満足している」を合計した割合を示している。

※東部：鶴見区、神奈川区、西区、中区、南区 / 北部：港北区、緑区、青葉区、都筑区



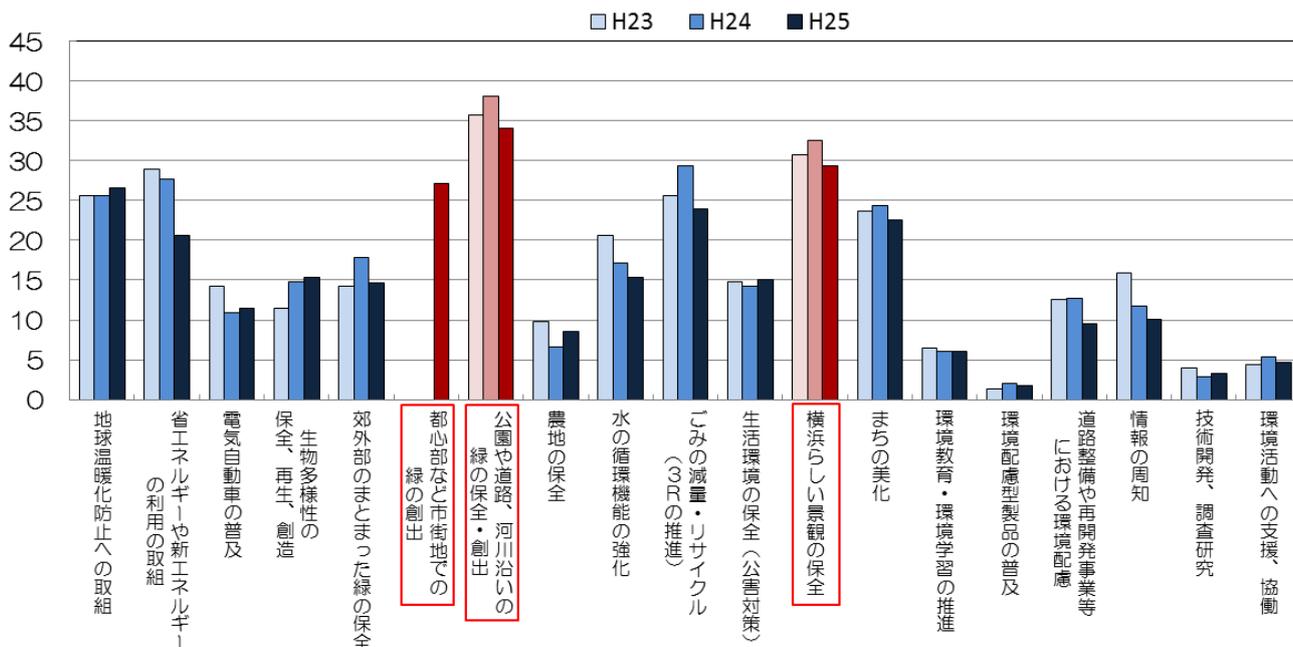
Q34. 今後、横浜市に優先的に取り組んで欲しい取組は何ですか？

◇上位3項目のうち2項目がみどり関係の取組(「公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出」「都心部など市街地での緑の創出」)。



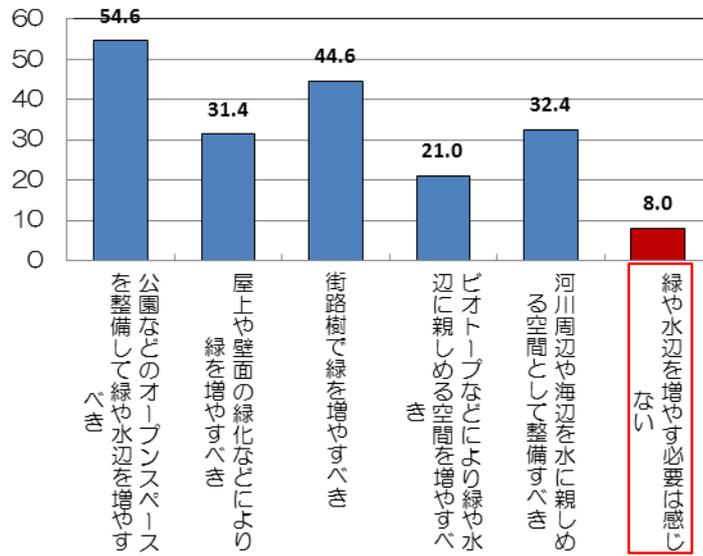
参考

Q34. 今後、横浜市に優先的に取り組んでほしい取組 (3つ選択) 経年変化



Q28. 横浜の中心部に、周辺部と比較して、緑や水辺が多くないことをどのように思いますか？

◇「緑や水辺を増やす必要は感じない」は8%のみ。

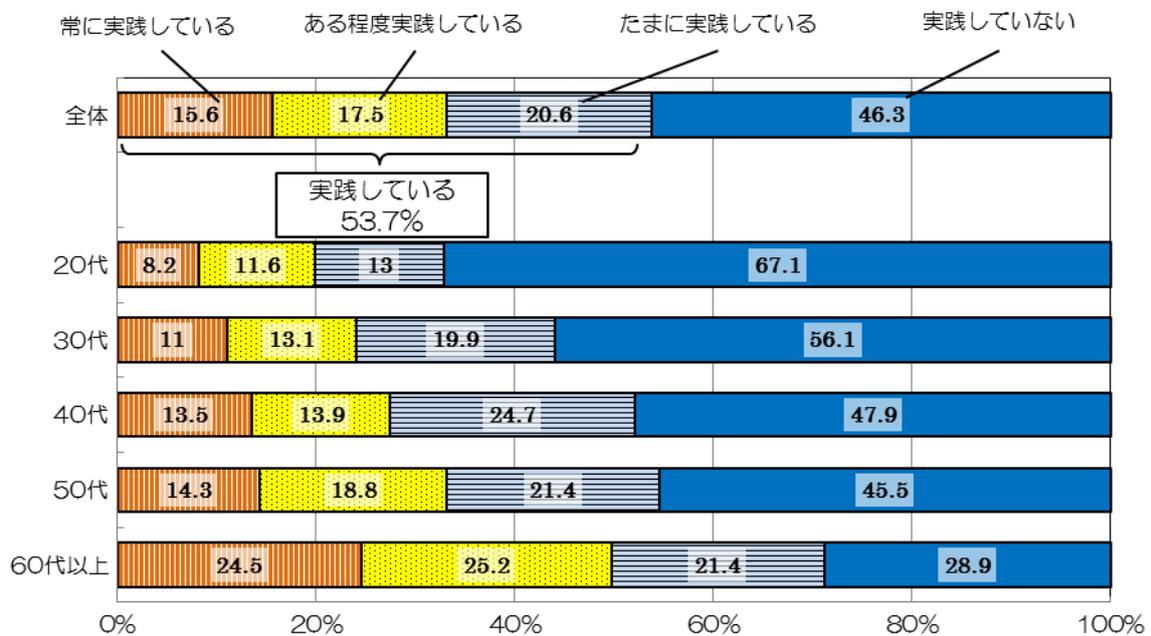


食と農について

- 横浜産の農産物を選んで買っているという回答が半数以上あります。年代が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、20歳代と60歳以上では2倍以上の差があります。
- 横浜産の農産物を購入する理由としては、「新鮮な農産物を購入したい」という回答が6割を超え最も多くなっています。また、「地元の農家を応援したい」という回答も約4割あります。

Q6. (11) 横浜産の野菜や果物を選んで買いますか？

◇全体では54%が実践。若い世代ほど実践していない傾向が顕著。



Q31. 横浜産の農産物を購入しようと思う理由は何ですか？

◇新鮮な農産物を購入したいが第1位(61%)。

